



●10月・11月分をまとめて報告させていただきます。

*10月のシネマサロン「市民ケーン」 解説：前川和明氏 《日時：10月21日

(日)》

映画史上最高傑作と言われるこの作品に挑戦したのは、長年映画関係の仕事に従事した前川和明氏。

シネマサロンでは初めての映画解説でありながら、謎の言葉「バラのつぼみ」rosebudの意味が観客だけにわかるように用意周到に仕上げられた演出・脚本・音楽・撮影技術などの特徴を丁寧に解説されました。またの登場が期待されます。

*10月の蓄音機コンサート

クラシックの時間ですー戦後洋楽事始 1951～1955

解説：高山善樹氏 《日時：10月28日(日)》

戦後來日したクラシックのアーティストたちの特集です。

【詳しい内容は、高山氏が自身のブログに写真や動画付きで、曲目と演奏者名も含めて再現されていますから、そちらをご覧ください。）

→ **〔児童文学と音楽の散歩道〕 (by ネコパパ) で検索**

戦後の疲弊した日本人に芸術の輝きと生きる希望を届けた演奏家の名演を聴きました。SPレコードのサウンドの素晴らしさに驚かされましたが、それだけでなく、来日音楽家たちにまつわるエピソードにも興味深く思いました。特にメニューイン(vln)が博多で靴磨きをしていた貧しい音楽好きの少年にヴァイオリンをプレゼントした逸話(のちに絵本化→滝一平作・宇野亜喜良絵「少年とバイオリン」)や、コルトー(p)の場合は、日本が大好きになりたまたま宿泊した旅館から見た無人島に感動して、その島を売ってほしいと村長に頼みこんだ話。村長は「本当に住むのなら無償で差し上げます」と快くOK。その島は「弧留島」(こるとう)と名付けられ、今では観光名所になっているとのことでした。彼は「弧留島」という印鑑まで作ったとのこと。……素晴らしい演奏以外にこんなお話がいっぱい聞きました。クラシック以外に児童文学にも造詣が深い高山氏ならではの解説で、充実したコンサートになりました。